

第2回 重信川堤防調査委員会

議事要旨

1. 日 時：平成30年3月15日（木）13:30～15:30

2. 場 所：松山河川国道事務所 2階 第1,2会議室

3. 出席委員

：委員長

鈴木 幸一（愛媛大学名誉教授）

委 員

岡村 未対（愛媛大学大学院理工学研究科教授）

佐々木 哲也（国立研究開発法人土木研究所上席研究員）

諏訪 義雄（国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室長）

4. 議事概要

- ・第2回委員会では、第1回委員会での指摘事項を踏まえて、現時点での調査と検討結果から分かったことについて事務局から説明してもらい、堤防漏水の原因等について議論した。

《共通事項》

- ・降雨は事前降雨により、平成13年6月出水の方が厳しい可能性があることも踏まえて、平成13年6月出水の外力条件で解析を実施することを事務局にお願いした。
- ・漏水区間と水頭差、平均動水勾配の整理に関しては、今回の出水より低い水位でも漏水が発生する可能性があることの記載を追記することを事務局にお願いした。
- ・「まとめ」において、どこから浸透してきたのかという観点の記載を追記するとともに、浸透経路を考慮した対策工の検討を行うことを事務局にお願いした。

《左岸3k800》

- ・まとめの第三段階の陥没する事象のプロセスについて、引き続き検証することを事務局にお願いした。
- ・被災プロセスのイメージ図では、空洞の向き等、現象を正確に表現することを事務局にお願いした。

《右岸2k500》

- ・周辺の川裏堤防法面が寺勾配であるように見えるため、今回の出水によって変形している可能性を踏まえて、過去の定期横断測量図との比較などで状況を把握することを事務局にお願いした。

《今後の調査方針》

- ・対策工の検討は、被災区間のみではなく、無被災区間との違いを把握した上で検討することを事務局にお願いした。